タカの渡り調査　参加の手引き

秋空の下、タカを見つけよう！数えよう！

八王子・日野カワセミ会

目次

はじめに …… 1

当会におけるタカの渡り調査の歴史 …… 2

渡るタカの代表選手はサシバ！ …… 3

重点調査地と調査の実際 …… 5

松竹公園西・城山湖ダムサイト ・ その他

観察道具の準備 …… 11

Q＆A …… 14

あとがき …… 17

＜表紙写真＞ **サシバ**（タカ柱） 松竹公園西 2017.9.29

はじめに

タカ類は一部を除いて、普段あまり目にしませんが渡りの時期はサシバやハチクマなどを見ることができる絶好の機会です。上昇気流に乗って円を描きながら高度を上げていく姿（タカ柱と言っています）を見上げると、誰でもが感動します。

このようなタカの渡りを観察できるスポットは全国に点在していて、各地点で通過するタカの羽数のカウント等の調査が行われています。幸い当会の活動地域にもこのようなスポットがあり、本会でもタカの渡りの調査をしています。私たちが集める一日一日の観察記録は小さなものですが、その小さな記録が集まると地球環境の変化を知るデータの一部となります。

タカの渡り調査には大勢の会員に参加していただくことが必須です。その理由は主に二つあります。①サシバ等タカの渡る時間帯は 8 時頃から 15 時頃までの間、この間いつ出るかは全く分からないので常時、空を見上げていなければなりませんが、一人だけで長時間空を見上げ続けていることはできません。何人かで交替しながら続ける必要があります。②サシバ等タカの渡る時期は 9 月中旬頃から 10 月中旬頃、この間毎日継続して調査をすることが肝要で、何人かで交替しながら続ける必要があります。

現在、調査に参加している会員は当然のこととして毎年高齢化していきますので、新たにこの調査に参加していただく会員が増えることが望まれます。新たにこの調査に参加しよう思っても、「調査」と聞いただけで敷居が高く感じる会員のためにこの「手引き」を作成しました。先ず、調査スポットに行ってみて下さい。タカ柱に感動して欲しいです。そこにはその感動を共有できる仲間もいます。そこで調査に参加している仲間が何をしているかがこの「手引き」を見ることで理解できると思います。

タカの調査は「楽しみながら」やらないと長続きしません。「楽しみながら」といわれても不安が残ると思います。その不安に答えるＱ＆Ａもこの手引きの最後に付いています。この手引きをザックの片隅に入れておき、いつでも、何回でも開いていただくことを期待します。

サシバ

当会におけるタカの渡り調査の歴史

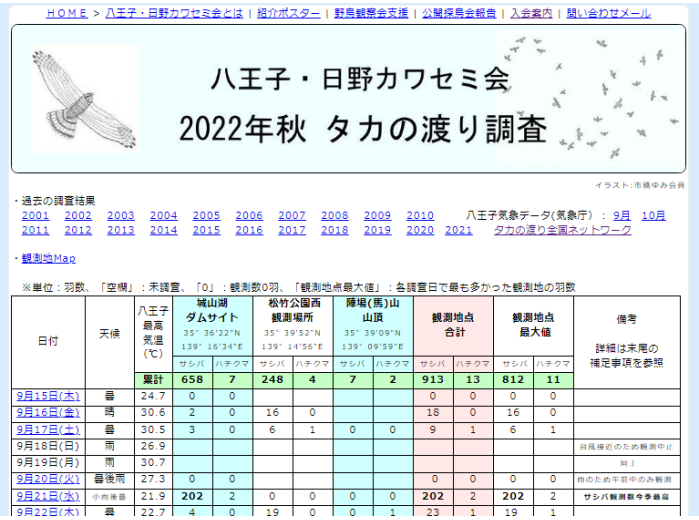
調査を始めて30年！

当会が秋のサシバ等の渡り調査を組織的に始めたのは 1993 年で、以降 2023 年まで 30 年続いています。最初の頃はサシバがどこを通っているか、どこに行けば通過中のサシバを観察できるかの情報がなく、手探りの状態でした。したがって、いろいろな場所に出向いてサシバを観察しました。2003 年に中間まとめを行い、サシバが多く通過する場所が概ね判明しました。そこで、2004 年には、遠矢堀公園（八王子市下恩方町）、陣馬山山頂（八王子市上恩方町、相模原市緑区）、高尾山霞台（八王子市高尾町）、城山湖ダムサイト（相模原市緑区）の 4 か所を重点調査地として絞り込みました。

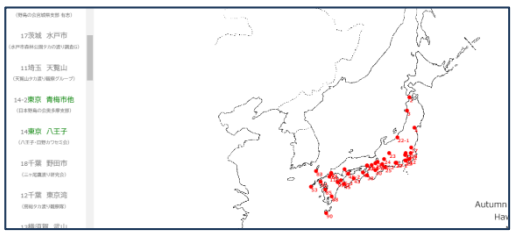
2007 年からは高尾山霞台の調査担当者が手配できなくなったことと、高尾山霞台と城山湖ダムサイトは至近距離にあることの理由により、高尾山霞台をやめて遠矢堀公園、陣馬山山頂、城山湖ダムサイトの 3 ヶ所に絞りました。2010 年からは遠矢堀公園が観察地の樹木の繁茂、周辺耕作者への迷惑などの理由で約 600m 東側の松竹公園西（八王子市下恩方町）に変更しました（ただし、2013 年は一時的に遠矢堀公園にもどした）。

2023 年からは陣馬山山頂は山の上までのアクセスが困難なため参加者が少ないこと、他の 2 か所と比べてサシバの通過数が少ないことの理由で重点調査地から除外して、松竹公園西と城山湖ダムサイトの 2 か所に絞り込みました。 1993 年～1995 年の 3 ヵ年は休日だけの実施でしたが、1996 年からは調査期間中、毎日の連続調査としています。

調査結果の公表



日付	天候	八王子最高気温(℃)	城山湖ダムサイト 35°36'22"N 139°16'34"E		松竹公園西観測場所 35°39'52"N 139°14'56"E		陣場(馬)山山頂 35°39'09"N 139°09'59"E		観測地点合計		観測地点最大値		備考 詳細は末尾の補足事項を参照
			サシバ	ハチクマ	サシバ	ハチクマ	サシバ	ハチクマ	サシバ	ハチクマ	サシバ	ハチクマ	
		累計	658	7	248	4	7	2	913	13	812	11	
9月15日(木)	曇	24.7	0	0					0	0	0	0	
9月16日(金)	晴	30.6	2	0	16	0			18	0	16	0	
9月17日(土)	曇	30.5	3	0	6	1	0	0	9	1	6	1	
9月18日(日)	雨	26.9											台風接近のため観測中止
9月19日(月)	雨	30.7											同上
9月20日(火)	曇後雨	27.3	0	0					0	0	0	0	雨のため午前中のみ観測
9月21日(水)	小雨後曇	21.9	202	2	0	0	0	0	202	2	202	2	サシバ観測数今季最高
9月22日(木)	曇	22.7	4	0	19	0	0	1	23	1	19	1	



その日の調査結果は各調査地の担当者により当会メーリングリストに発信され、当会のホームページでも即日に速報値を公表しています。また、このページは全国組織である「タカの渡り全国ネットワーク」のホームページにもリンクされ、国内におけるタカの渡りのタイムリーな状況を知ることができるようになっています。

その年の調査結果については、翌年（3月）に当会の会報「かわせみ」春号に掲載され、関係機関に配布されます。

なお、2010 年 12 月には当会25周年記念事業の一つとしての位置づけで、他団体と共催というかたちをとり、「第7回タカの渡り全国集会in関東」を開催し、発表及び全国の団体、仲間との情報交換、交流を深め、冊子も編集・発行しました。

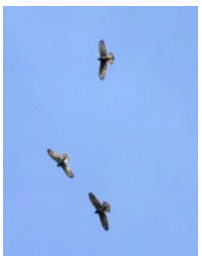
渡るタカの代表選手はサシバ！

日本を代表する渡るタカは「サシバ」です。愛知県の伊良湖岬や長野県の白樺峠はよく知られた観察スポットですが、八王子市や日野市の上空も通過していきます。当地でも秋の渡りシーズンに記録される羽数が最も多いタカです。

サシバはどんな鳥？

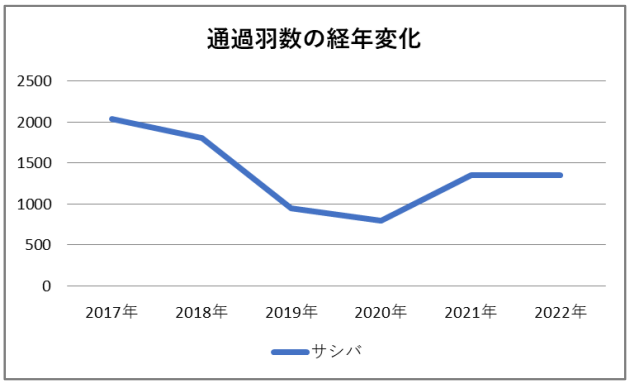
＜分布＞ サシバは日本や朝鮮半島など東アジアの温帯地帯が繁殖地です。国内では東北～九州で子育てします。越冬地は中国南部～東南アジアで、国内では琉球列島で少数が越冬します。

＜生息環境や食性＞ 主に低山の森林に生息し、谷戸（山間部の田んぼ）があるような里山環境を好みます。カエルやヘビ、昆虫、小型哺乳類等を餌にします。八王子・日野市域では高尾山周辺で古い繁殖記録はありますが、近年は繁殖期の目撃情報はほとんどなく、繁殖は確認されていません。



＜渡り＞ 秋は9月中旬～10月中旬にかけて日本列島を南下し、越冬地に向かい、春は3月下旬から5月上旬に繁殖地に戻ってきます。特に秋の渡りシーズンには各地で大きな群れが見られます。

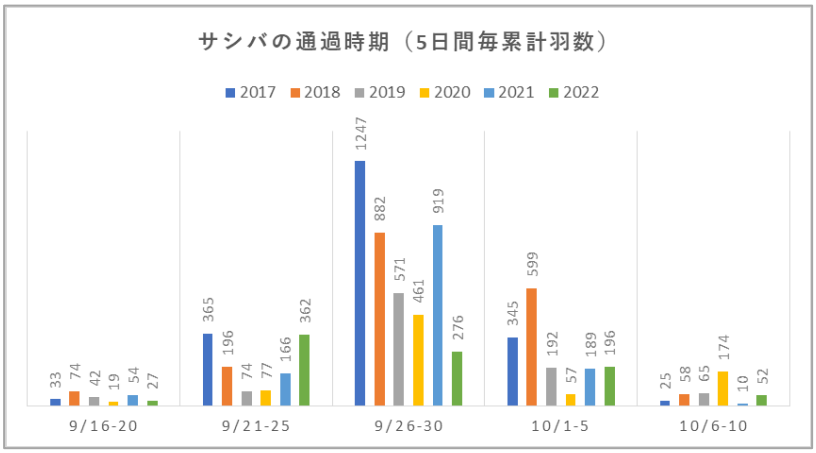
当地におけるサシバの通過羽数と時期や時間



これまで当地の調査地で観察されたサシバの総計（松竹公園西、城山湖ダムサイト、陣馬山山頂の1シーズンの総計）は年によって異なりますが、毎年 500 羽以上がカウントされています。多い年は1シーズンで 2000 羽を超える年もありました。

それぞれの調査地の一日の通過数ですが、天候によってはまったく渡らない日もあれば、一日で 1000 羽以上も渡った「大当たり」の日も過去に一度だけですが、ありました。100 羽を越えた日は「当たり！」といって良いでしょう。帰宅してからのビールがいつにも増して美味しく感じられる充実した1日となります。

サシバの渡りが多く見られる時期は、当地では 9 月下旬～10 月上旬の間です。この期間に観察地で1日に 100 羽を超えるような「当たりの日」と呼ばれるピークが1～2回、出現します。ピークは雨が数日続き、その後天気が回復した後が多いようです。悪天候になり、渡りができずに途中で待機していた個体が満を持して、一斉に渡る印



象です。雨が上がった翌々日がねらい目だという話も聞きますが、多少ずれることも…。その年の観察地や他の地域でのサシバの出現状況や天気の変化等を考慮し、自分のこれまでの観察経験も加味しながら、自分でピークを予測し、現地に赴き、ピークに当たった時の感激はひとしおです。

1 日のうちでサシバが多く渡る時間帯は前日や当日の天候によっても多少異なりますが、当地では大体 10 時～14時位の間です。複数のタカが上昇気流をとらえて旋回しながら、いわゆる「タカ柱」を形成する群れが多く見られるのもこの時間帯です。ピークの日に当たるとゆっくりと昼食をとる余裕もなくなります。きょうはタカがたくさん渡りそうな気配？がある日は早めに昼食をとって、「臨戦態勢」に入ることもあります。

サシバ以外にも渡るタカや小鳥

当地での調査で観察されたタカやハヤブサの仲間は10種類を超えます。トビやオオタカも少数ですが渡っていると思われる個体が観察されます。渡りではありませんが、地付きのクマタカも見られることがあります。

ヒヨドリやエゾビタキ、ツバメやアマツバメの仲間等、小鳥類の渡りも見られます。渡りをする蝶として有名なアサギマダラ等、昆虫類も観察できます。渡りではありませんが、秋の風物詩であるモズの高鳴きも聞かれます。

重点調査地と調査の実際

これまでは「松竹公園西」「城山湖ダムサイト」「陣馬山山頂」の3ヶ所を重点調査地としていましたが、陣馬山山頂は調査担当者の継続的な確保が難しくなったこともあり、今後の重点調査地は2ヶ所となります。

調査期間 は 9 月中旬～10 月中旬の約 1 ヶ月間。できるだけ、調査日に空白が出ないようにしています。雨天時は原則、中止です。

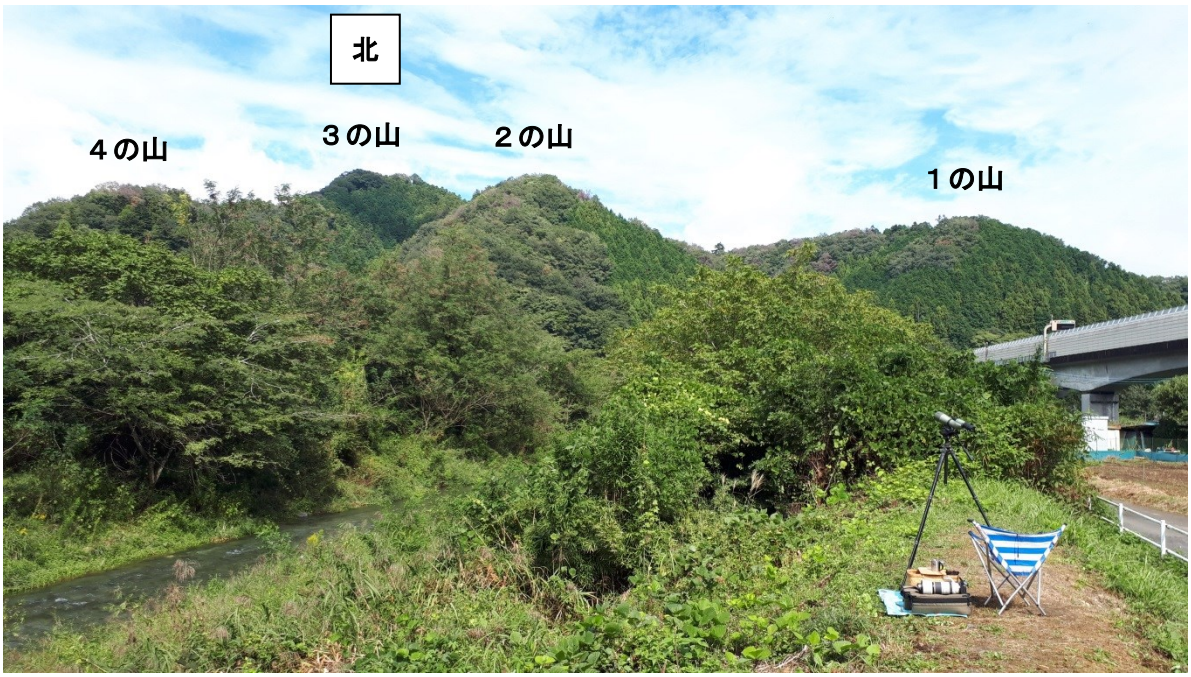
調査時間 は午前 8 時頃から午後 3 時頃までですが、その日の天候やタカの出現状況に応じて、柔軟に対応しています。

調査風景　松竹公園西

実際の調査 はタカが渡ってくるのをひたすら「待つ」ことから始まります。調査地の上空を通過するタカを見つけ、双眼鏡等を使って種類を同定し、羽数を数え、記録します。広い空から小さな「・（点）」のようなタカを探し出すには一人でも多くの眼が必要となります。調査の醍醐味は何といっても「タカ柱」の観察です。上空に見つけた小さな点が徐々に数を増して、群れになり、タカ柱が形成された時には歓声が上がります。

重点調査地の紹介

○ 松竹公園西　八王子市下恩方町　MAPCODE 23285307*08



観察場所　周囲を山に囲まれた畑地が点在する北浅川沿いの土手の上

アクセス　京王八王子駅 ・JR 八王子駅北口 （大久保行乗車） → 松竹　下車

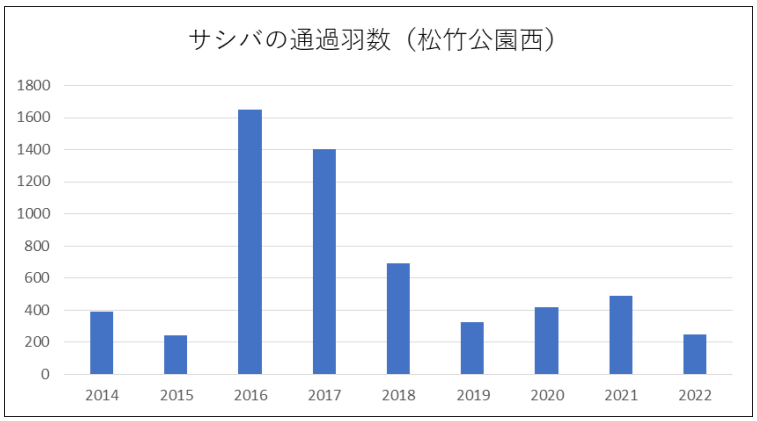
JR 高尾駅 （陣馬高原行乗車） → 松竹　下車

JR 高尾駅 （大久保行乗車） → 松竹　下車　　※ 松竹バス停からは徒歩約7分

トイレ　近くにある「松竹公園」のトイレを利用可 （水洗）

駐車スペース　松竹公園横の道路、北浅川沿いの道路脇等に駐車スペースあり

＜これまでの調査結果＞



サシバが1日で 100 羽以上通過した日

2014年	10月7日	121羽
2016年	9月30日	1267羽
2017年	9月29日	767羽
	10月1日	157羽
2018年	9月28日	361羽
	10月2日	159羽
2019年	9月30日	178羽
2020年	9月30日	178羽
2021年	9月29日	106羽
2022年	9月25日	128羽

調査場所はカワセミ会の北浅川（松竹公園西～陵北大橋）定期カウントコースのゴール地点です。

タカの渡り調査は土手の上からです。上と言っても1mぐらいです。タカ類の探し方は通称1の山、2の山、3の山、4の山と呼んでいる方向で、北東方面、北西方面を探します。また、圏央道に沿って南西方向も探します。この時、見つけられなくても心配ありません。目が慣れてくれば探せます。また、探せた時の感動は特別です。

双眼鏡を覗いている時にサシバらしきを見つけた方が「1の山の上」とか言うとその方向を皆で探します。見つけると数を数えます。この時も探せなくても心配ありません。目が慣れてくれば探せるようになります。

カケス、アオバト、クマタカ等の山の鳥、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、カワガラス等の川の鳥、モズ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、渡り途中のエゾビタキ、アサギマダラの渡り等も見られます。野草やチョウ、トンボ等も観察でき、景色も空気も良く静かなところです。モズの高鳴きも必ずと言っていいほど聞かれます。

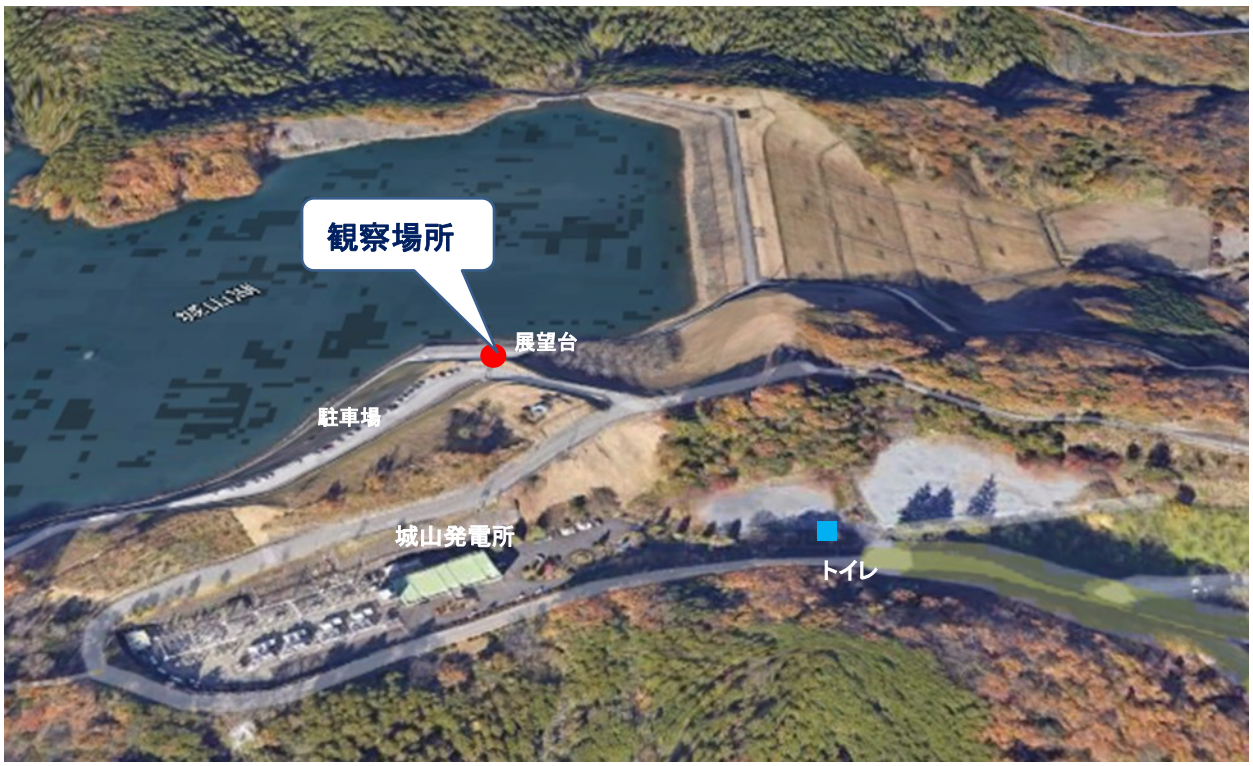
渡りがない時などは流れる雲の形を見ていろいろ空想したり、飛行機を見つけたりしていると、突然サシバの群れ等を発見することもあります。また、ベテランの会員からサシバや小型のタカ等の探し方や識別の仕方等も教えてもらえます。

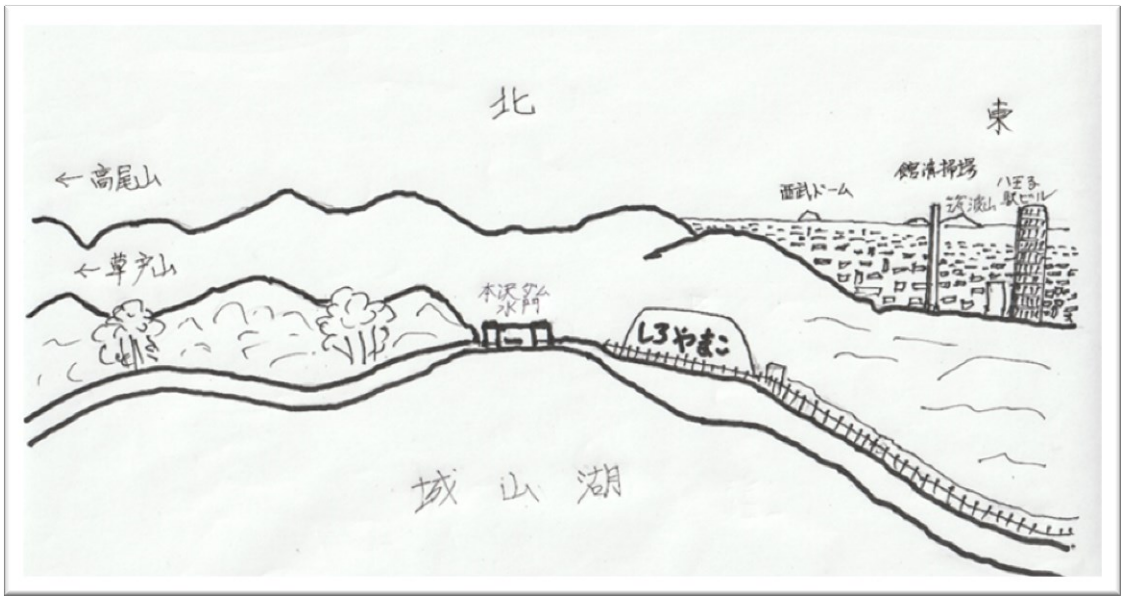
会員の皆様、探鳥会や定期カウントと同じ感覚で、タカの渡り調査にも一度、参加してみてはいかがでしょうか。

松竹公園　みられてうれし　タカ柱
雲の中　わたるサシバの　数かぞえ
高空で　上昇気流待つ　サシバかな

（ 中村 后子 ）

○ 城山湖ダムサイト　神奈川県相模原市緑区川尻　MAPCODE 23078248*66





観察場所　湖の南側にある展望台 東屋の付近 駐車場に隣接（車利用が便利）

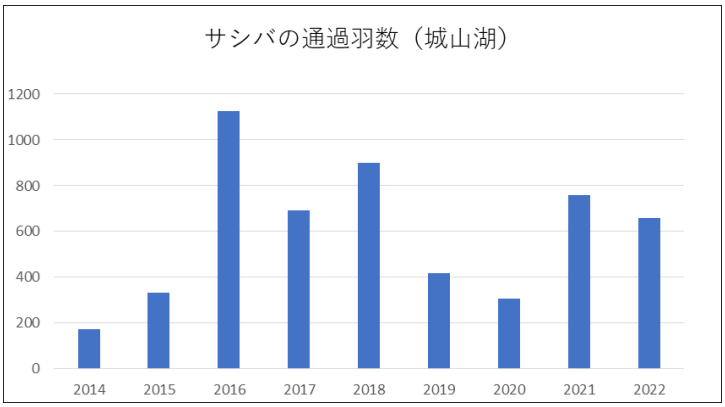
アクセス　神奈中バス 橋本駅南口・相模原駅西口（大戸行乗車）→ 大戸 下車

※ 終点 大戸バス停から徒歩 1.9 km

駐車場　開門 8 時予定(7:30 には開いている)

トイレ　観察場所から 700m発電所入口付近に公衆トイレあり

＜これまでの観察結果＞



サシバが1日で 100 羽以上通過した日

2016年	9月30日	846羽
	10月7日	106羽
2017年	9月29日	351羽
2018年	9月28日	440羽
	10月2日	258羽
2021年	9月27日	421羽
	9月28日	154羽
2022年	9月21日	202羽
	10月1日	147羽

私とタカとの出会いは15年ほど前、偶然、城山湖を訪れた時、カワセミ会のタカの渡り調査に出会った ことに始まる。当時、タカとトビの区別も判らなかったが、たまたまサシバの渡り30羽程のタカ柱に出会い、感激。「タカの渡り」のとりこになり休日を利用し、城山湖に行くようになった。先輩の関根伸一さんに手ほどきしていただき、「まずトビとタカが判るようになれ」とトビの特徴、タカの見分け方を指導していただいた。10年程前、現役を退き、シーズンにはできるだけ毎日観察するようになった。その頃は今より目が良くて第一発見者になることも多く、人よりもいち早く見つけることに喜びを感じたりしていた。

その頃に比べるとタカの渡り愛好者も増えて、近年では当会以外の愛好者も含め30人を超える人が観察に訪れる。たまたま訪れた時、渡りのタカ柱を見て病みつきになり毎年やってくるようになった人(我々の中では「タカ中毒に感染した」という)、また、カワセミ会ホームページを見てくるようになった人も多い。写真愛好家も多く、写真に撮り、写真判定に大きく貢献して調査に協力していただいている。また、おそろしく目の良い人もいて、最近めっきり目の悪くなった私を助けていただいている。このようなタカ仲間の協力によりタカの渡り調査も成り立っている。タカが出現すると「あれあれ！ でた！ あっちあっち！ 来た来た！ どこどこ！」などの声があがり、カメラで追う人、数を数える人等、様々な行動をする。最近、朝一番の挨拶が「昨日は松竹に勝ったね」などと声をかけてくれる。城山湖のタカ仲間の意識を感じる。

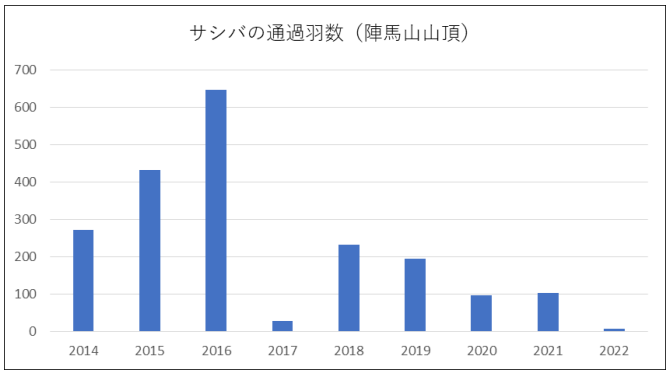
城山湖では比較的近くに見えることもあり、シーズンに2、3回は50羽超えのサシバのタカ柱が頭上にみられることがあります。昨年は一日の渡りが白樺峠を越えたこともありました。

これからもカワセミ会の枠を超えた城山湖のタカ仲間と楽しくタカの渡り観察続けていきたい。皆様も是非、城山湖を訪ね、城山湖のタカ仲間になってください。

（ 角田 幸男 ）

その他のタカの渡り観察地

○ 陣馬山山頂



サシバが1日で 100 羽以上通過した日

2015年	9月29日	407羽
2016年	9月30日	586羽
2018年	10月2日	134羽

観察場所　陣馬山山頂のベンチ付近

アクセス　西東京バス 高尾駅北口（陣馬高原下行乗車） → 陣馬高原下下車　徒歩 1 時間半

車利用の場合　和田峠から徒歩 30 分　和田峠付近に有料駐車場等の駐車スペースあり

トイレ 山頂にバイオ式トイレあり　**茶屋** 山頂付近で数軒が営業、食事も可 （営業日は確認のこと）

他に八王子・日野市域で、これまで 1 日に 100 羽以上のサシバが観察された場所は、八王子市では**景信山山頂**、**小仏城山山頂**、**高尾山霞台**、**小仏川駒木野公園**、（旧）**杏林大学**（**宮下町**）、**入山峠**、**大博採石場**（**小津町**）、**滝ノ沢林道**等が知られています。日野市においては**多摩川・谷地川合流付近**で 1 日に 200 羽以上が通過した記録があります。ひょっとしたらまだ知られていないタカの渡り観察の好適地があるかもしれません。

関東周辺のタカの渡り観察地

関東周辺では様々な場所でサシバの観察・調査が行われていますが、主な観察地を紹介します。

○ **梅の公園**　東京都青梅市　日本野鳥の会奥多摩支部　青梅線日向和田駅から徒歩
○ **天覧山**　埼玉県飯能市　天覧山タカの渡り観察グループ　西武池袋線　飯能駅から徒歩
○ **武山**　神奈川県横須賀市　三浦半島渡り鳥連絡会　京浜急行横須賀中央駅からバス＋徒歩
○ **権現山**　神奈川県秦野市　ふれあい自然探鳥会　小田急線秦野駅からバス＋徒歩

その他、茨城、千葉、山梨等でも観察・調査が行われています。また、その日の速報を始めとした情報交換が気軽にできるメーリングリスト（sasiML）も運営され、カワセミ会のメンバーも参加しています。

● **白樺峠**　長野県松本市奈川　標高 1700mの山中にあり、1シーズンで 8000 羽以上のサシバが記録されるタカの渡り観察のメッカです。正面から現れて真っすぐ,頭上を越えるように飛んでいくので間近に観察できます。タカの渡り観察の醍醐味を味わえ、種類、数とも多いので、識別の勉強にもなります。

観察道具の準備　　こんな道具があると、タカを近くに感じられます

南へ渡っていくタカ達を見たい！観察したい！と思っても、空高くを飛ぶことが多いタカ達。どんなにいい目を持っていても、目視で、種類まで確認するのはなかなか難しいことです。そこで必要になる道具類を、案内します。ただ、注意したいのは、いい道具、高価な道具があれば完璧！というわけではありません。タカの渡りの調査・観察もバードウォッチングの一環です。道具類に関してもいつもの延長です。

絶対必要なもの

○ 双眼鏡

まず、いつも使っている双眼鏡を用意しましょう。今使用中の双眼鏡で問題はありません。でも、新たに購入する場合には、倍率は7～8倍。せいぜい10倍程度まで。対物レンズの口径は、30～40ミリ程度が最適です。軽さに引かれて対物レンズの口径が20ミリ程度のコンパクトなものを選ばないこと。視野が狭いので、広い空から小さなタカを探すのは困難になります。最近は手振れ防止の機能がついた双眼鏡も発売されています。購入するときには、店頭で実際に手に取って、首にかけ、のぞいてみて、しっくりなじむことを確認しましょう。やはりある程度の値段のものはそれなりに見やすいです。

○ 記録用紙・筆記用具

観察したら記録を取っておくことが大切になります。記録用紙はカワセミ会所定のもの、または普段から使用しているフィールドノート等、自分で使いやすいものを用意しましょう。筆記用具も落ちないように首にかける等の工夫が必要です。画板もあると便利です。

あったら便利なもの

双眼鏡さえあれは、タカの渡り調査はできますが、よりタカを身近に感じ、楽しく調査を続けるのはあれば便利な道具類を案内します。

○ 望遠鏡(＋三脚と雲台)

高く遠いところを渡っていくタカの種類をみわけるのに必要になるのが、双眼鏡より倍率の高い望遠鏡です。これも今使用しているもので大丈夫。飛んでいるタカをスムーズに入れられるようなるには少し熟練が必要ですが、これまでと違った視界が得られ、新たな渡りの世界が広がります。新たに購入する場合には、対物レンズの口径が60ミリ以上で、直視型のものにしましょう。そして、三脚と雲台もセットで選びましょう。このセットが余り軽すぎると安定性がありません。重さとの兼ね合いになります。専門的になりますが、双眼の望遠鏡(望遠鏡を2本並べたもの)は威力抜群です。しかし、そこまで用意する必要性はないと思います。

○ カメラ

最近は望遠鏡だけではなく、500ミリ～1000ミリもの超望遠レンズを付けたカメラで撮った画像をその場で見て、タカの種類を見分けることも多くなっています。この方法は大変効果的ですが、カメラとレンズ、更に周辺機器をそろえると大変な高額になります。

○ 図鑑

タカの種類を見分ける力量を付けるには、まず、ベテランの人に聞くことですが、図鑑を手元において常に確認することも大切です。特に飛翔する姿を多く掲載した図鑑は大いに役立ちます。

○ 方位磁針

タカがどっちの方角からきて、どっちの方角に飛んでいったかを記録することも大切です。その為、方位を確定するために方位磁針があると便利です。また、方位磁針は、当日の風の方向を知ることにも役立ちます。

○ 温度計

調査・観察時の気象状況を記録しておくことも大切ですので、温度計があれば役立ちます。

○ 椅子

タカの渡りの調査・観察は朝から午後、又は夕方までの長時間になりますので、椅子、特に背もたれのある椅子があると大いに役立ちます。ただし、場所をとるので他の方にも配慮が必要になります。

○ 虫よけ用具・日焼け止め用具

傘は日焼け止めにもなるし、暑さ予防にもなります。日焼け止めクリーム等も活躍します。調査地点によっては虫よけ用具は必需品です。

○ 飲物・食べ物

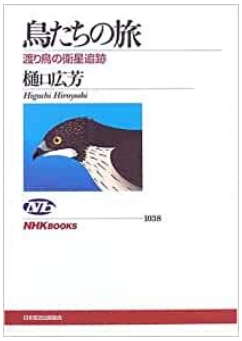
調査・観察時期はまだまだ暑さが続く時期ですので、水分補給やエネルギー補給も適宜できるように配慮することが大切です。タカが飛ばない待ち時間にはコーヒー等、好きな飲み物でのティータイムも良いでしょう。

以上、このような道具も必要ですが、一番必要なのはタカをはじめとする野鳥への愛情と、一緒に調査・観察する人への思いやりです。

参考になる図鑑や読み物

タカの渡りを楽しむ本
文一総合出版

タカの渡り観察
ガイドブック
文一総合出版



鳥たちの旅
日本放送出版協会

日本の渡り鳥
観察ガイド
文一総合出版

タカ・ハヤブサ類
飛翔ハンドブック
文一総合出版

ワシタカ・ハヤブサ
識別図鑑
平凡社

フィールド図鑑
日本の野鳥 第２版
文一総合出版

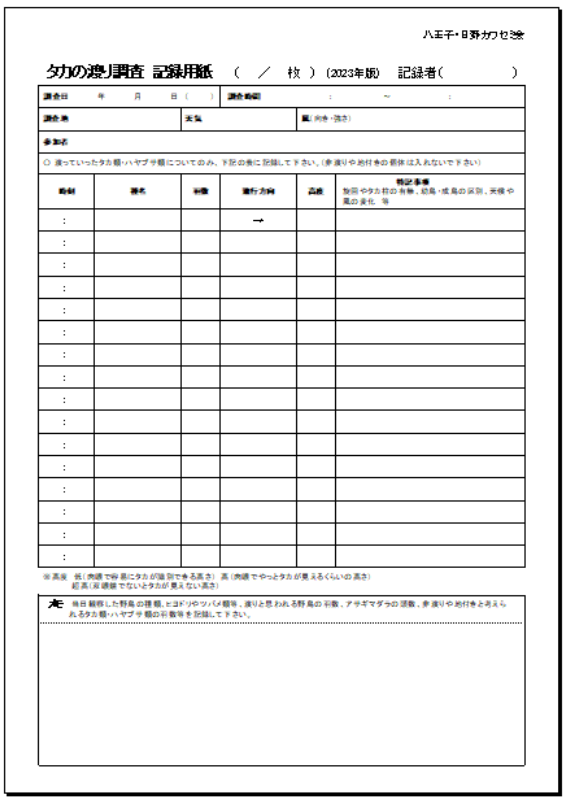
60 歳からの
ホーク・ウォッチング
幻冬舎ルネッサンス

※ タカの渡り観察の仕方や国内（アジア）の鳥の渡りについて解説した本、タカ類の飛翔写真やイラストを多く掲載した図鑑類、タカの渡り観察の楽しみが書かれたエッセイ本等です。すでに絶版になったものもあるかもしれません。

記録用紙 ・報告用紙

調査地ではその日の記録係を1名決め、記録用紙にタカ等を発見した時刻、種名、羽数、飛行方向、高度等を記録します。また、現地で観察した野鳥の種類、タカやハヤブサ類以外で渡りと思われる野鳥（ ヒヨドリ、エゾビタキ、ツバメ類、アマツバメ類等 ） の羽数、アサギマダラの頭数等も記録しておきます。調査終了後、所定の報告用紙に必要事項を記入し、後日、とりまとめの担当者に送ります。

記録用紙


八王子・日野カワセミ会

タカの渡り調査 記録用紙 （ ／ 枚 ）（2023年版） 記録者（ ）

調査日	年 月 日（ ）	調査時間	: ～ :
調査者		天気	風（向き・強さ）
参加者			

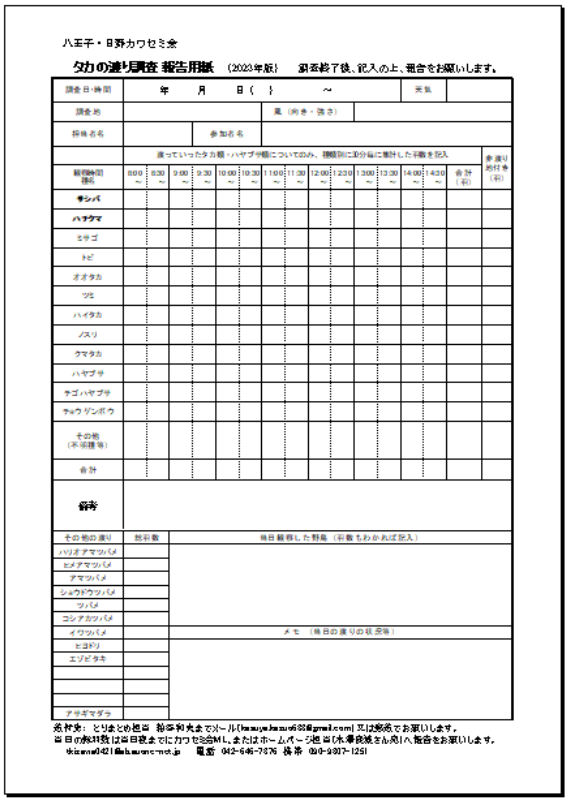
○ 渡っていったタカ類・ハヤブサ類についてのみ、下記の表に記録して下さい。（参渡りや地付鳥の個体は入れないで下さい）

時刻	種名	羽数	飛行方向	高度	特記事項
:			→		数回やタカ狩りの有無、幼鳥・成鳥の区別、天候や風の変化 等
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					
:					

※高度 低（肉眼で容易にタカが識別できる高さ） 高（肉眼でやっとタカが見えるくらいの高さ）
超高（双眼鏡でないとタカが見えない高さ）

メモ 当日観察した野鳥の種類、ヒヨドリやツバメ類等、渡りと思われる野鳥の羽数、アサギマダラの頭数、参渡りや地付きと考えられるタカ類・ハヤブサ類の羽数等を記録して下さい。

報告用紙


八王子・日野カワセミ会

タカの渡り調査 報告用紙 （2023年版） 調査終了後、記入の上、報告をお願いします。

調査日・時間	年 月 日（ ） ～	天気	
調査地		風（向き・強さ）	
調査者名	参加者名		

渡っていったタカ類・ハヤブサ類についてのみ、種類別に区分毎に集計した羽数を記入

観察時間帯	8:00～	8:30～	9:00～	9:30～	10:00～	10:30～	11:00～	11:30～	12:00～	12:30～	13:00～	13:30～	14:00～	14:30～	合計（羽）	参渡り地付き（羽）
サシバ																
ハチクマ																
ミサゴ																
トビ																
オオタカ																
ツミ																
ハイタカ																
ノスリ																
クマタカ																
ハヤブサ																
チゴハヤブサ																
チョウゲンボウ																
その他（未同種等）																
合計																

備考

その他の渡り	総羽数	当日観察した野鳥（羽数もわかれば記入）
ハリオアマツバメ		
ヒメアマツバメ		
アマツバメ		
ショウドウツバメ		
ツバメ		
コシアカツバメ		
イワツバメ		メモ （当日の渡りの状況等）
ヒヨドリ		
エゾビタキ		
アサギマダラ		

送付先： とりまとめ担当 鈴木利夫までメール[kasuyukasuu6@gmail.com] 又は郵送でお願いします。
当日の総羽数は当日夜までにカワセミ会ML、またはホームページ担当[木暮良雄さん宛]へ報告をお願いします。
tkizawa0421@nifty.ne.jp 電話 042-646-7876 携帯 090-9807-1251

記入の仕方については別紙マニュアルを参照して下さい。

Ｑ＆Ａ　　調査に関する質問にお答えします

Q1　調査地での一日のタイムテーブルは通常はどんな感じですか？

A　8 時頃に現地に到着、観察道具の準備をし、メンバーが揃ったらその日の記録係を決め、調査開始。交代で休憩（トイレ、ティータイム）もとりながら調査を継続。１１時～１３時ぐらいの間でそれぞれ昼食をとり、午後も調査を続けます。調査終了は 15 時頃ですが、サシバの通過数が低調な日は終了時刻を早め、14 時頃に終了とすることも多々あります。調査時間はだいたい６～７時間ぐらいになります。

Q2 飛んでいるタカを探すコツは？

A　一般的な探鳥では、鳥を見つけるには、鳥が止まりそうな場所（木のてっぺん等）を集中して探したり、鳴き声が聞こえてきた方を注意深く探したり、特定のポイントにジィーと焦点を当てるのがコツですが…。広い空を飛んでいるタカを探すコツはズバリ、一か所に焦点を当てることなく、広い視野で「ボォーと見ること」です。慣れてくると視野の中で少しでも動くものがあると、すぐにわかるようになります。

Q3 長時間、空を見続けるのは大変では？

A　ズーっと空を眺めて、どこから飛んでくるかわからないタカを探し続けるのは根気もいりますし、確かに大変です。正直言って、集中力もそんなに長くは続きません。疲れを感じる前に、交代で積極的に休憩をとりながら、のんびりと観察を続けましょう。

Q4　最初に飛んでいるタカを発見した場合、どうすればいいの？

A　タカの種類がわからなくても、すぐに声に出してタカを見つけたことを周りの人に知らせます。この時、大切なことは双眼鏡から目を離さないことです。一度、双眼鏡から目を離してしまうと、特に遠くを飛ぶタカは再度、その姿をとらえるのは難しくなります。双眼鏡を覗いたまま、種類やどの辺を飛んでいるか等の情報をやり取りしながら、観察を続けます。

Q5　発見したタカが飛んでいる位置や方向をどうやって他の人に知らせたらいいの？

A　それぞれの観察地では周囲の山や目立つ木に便宜的な名前が付けられていて、たとえば「2の山のすぐ上に1羽、出た！」「栗の木の上空を南に向けて今、通過した！」等、できるだけ具体的に飛んでいる位置を知らせます。上空高いところを飛んでいる場合はたとえば「バックは白い雲！」「今、白い雲の上の青空に出た！」等の言い方で方角や高さを伝えます。また、片手で双眼鏡を保持し、もう一方の人差し指を飛んでいる方角に向け、おおよその位置を知らせることもあります。双眼鏡で実際に観察している人の後ろに回り込み、同じ目線に立って、双眼鏡が向いている方角からおおよその位置を把握する方法もあります。

Q6　どうやってはるか遠くを飛んでいるタカを見つけるの？

A　肉眼で見つからないような遠方を飛ぶタカは、やはり双眼鏡で空をなめるように視界を移動させ、見つけ出します。地付きのトビやカラスを双眼鏡で観察している時、偶然、視界の中に、後方で飛ぶタカの姿が飛び込んでくることもあります。いずれにしても、双眼鏡をまめに空に向けることが発見につながります。

Q7　渡っているタカと、渡っていないタカはどうやって見分けるの？

A　北（東）の方角でタカを発見したら、姿を見失なわないように観察を続けて、最終的にどの方角に飛び去ったかを確認します。途中で帆翔と滑空を交互に繰り返すこともありますが、北（東）から現れて、最終的に南（西）方向に飛んで行った個体は「渡り」と見なします。南→北、西→東等、それ以外の経路を飛ぶ個体は「非渡り」とします。北から飛んできたサシバであっても、途中で飛んできた方向に引き返したり、下降して近くの山腹の木に止まったりした個体はやはり「非渡り」とします。当地では主に留鳥とされるトビやオオタカ、ノスリでも北の方で繁殖する個体は渡りをすることが知られていますので、空の高いところを北から南に一気に飛んでいった個体は一応「渡り」と見なして、記録します。

Q8　遠くの「・（点）」にしか見えない鳥をどうやって識別するの？

A　点々がたくさん見えるような群れが、まとまって上昇した後、南（西）の方角に流れていく様子が観察できれば、その群れはサシバであることがわかります。ちなみに遠くを飛ぶカラスやトビの群れも「タカ柱」のように見えることがありますが、これらの群れは途中でばらけたり、渡りのコースとは別の方向に飛んで行ったりするので、サシバではないことがわかります。望遠鏡があれば、遠くを飛ぶタカも双眼鏡で観察するより、何倍も大きく見えるので、識別できることも多いです。飛んでいるタカを入れるには慣れが必要ですが、お持ちの方はぜひ、持参してください。

Q9　識別できなかった時はどのように記録するの？

A　タカ類は羽衣の色合いが褐色等、地味なもの、また、特徴的な識別ポイントがないものが多く、種の識別が難しいグループです。ましてや、飛んでいるタカは識別に悩むことも多々あります。識別が難しい場合は、無理して結論を出さず、わかる範囲で記録してください。たとえば、サシバと思われるが確定できない場合は「？」をつけて「サシバ？」、ハイタカ属（オオタカ、ハイタカ、ツミ）のいずれかではあるが種まで同定できない場合は「ハイタカ sp.（ハイタカ属の一種）」、属もわからないが小型のタカ類は「小型タカ類」、大型の場合は「大型タカ類」等の表現で記入して下さい。

Q10　大きな群れのタカ柱に遭遇した時、どのようにカウントすればいいの？

A　大きな群れのタカ柱が見つかった時はすぐには数えないようにしましょう。群れ全体が上昇気流をとらえて円を描くように帆翔して上へ上へと昇っていったり、このタカ柱を見つけた単独のサシバが次々と群れに合流して数を増したりすることもありますので、正確に羽数を数えるのは難しくなります。観察を続けていると、サシバはある高さまで上昇した後、同じ方向に一直線に流れるように滑空し始めます。この時、先頭の個体から順番にカウントすると、ほぼ正確な数を把握することができます。また、調査者がそれぞれカウントした数をすり合わせて、最終的に羽数を確定することもあります。

Q11　調査に参加したいのですがどうやって申し込むの？

A　8月上旬発行の「探鳥会あんない」に「タカの渡り調査への参加依頼」の案内が掲載されますので、その参加要項に従って、申し込みをお願いします。参加申し込みがあった方には、参加者一覧表、調査用紙、調査マニュアル等を別途送付します。日程が埋まらない場合は再度、カワセミ会メーリングリスト等で日にちを指定して、再度、参加をお願いする場合もあります。

Q12　当日、急に時間ができたので参加したいけれど大丈夫？

A　特に事前の申し込みがなくても参加 OK！参加者が増えれば増えるほど、タカを見つけやすくなるので大歓迎です。参加された場合は当日、現地の責任者に一言、お声かけ下さい。

Q13　短時間の参加でもいいですか？

A　午前中だけ、午後からだけ、途中1時間、2時間だけでも OK です。短時間でも目が増えれば、それだけタカを見つけやすくなるので大歓迎です。

Q14　当日、雨天の場合の対応は？

A　原則、雨天中止です。特に中止の連絡はしませんので自分の判断で対応をお願いします。渡りシーズンの終盤には小雨が降っていても、羽ばたきながら、頑張って？渡る個体が見られることがあります。また、朝のうちは雨でも、その後、雨が止んで晴れてきた場合は途中からでも実施することがあります。

Q15　まったく初心者の私が調査に協力できることなんてあるの？

A　野鳥観察を始めたばかりの方でも大丈夫です。一緒に空を見上げ、何か飛んでいるものを見つけたら、タカ（あるいは鳥）と確信できなくても、「あれ、な～に？」「何か飛んでいる！」等、大きな声で周囲に知らせてください。カラスや小鳥類のこともありますが、最初に見つけたタカということもありあり！です。見つけてもらえれば、その後はベテランに観察を引き継いで、種の識別や飛行方向の確認等ができます。たくさんの目のひとつになって下さい。

Q16　もし、その日の調査者が私一人になったら、飛んでいるタカを見逃さずに記録する自信がありません。見落としがあってもいいのですか？

A　参加者の都合で、結果的に一人で観察（調査）をしなければならないこともあるかもしれません。どうしても目が少ない分、見逃しも多くなるのは仕方ありません。ベテランと言われる人でも広い空を一人でくまなく見続けることは不可能です。渡っていったタカの種類や数が曖昧でも、その日、何時頃に「タカの渡り」という事象が見られたということだけでも、貴重な観察結果です。たった一人であれば、たった1羽の渡るタカとの出会いでもかけがえのないものとなるでしょう。

Q17　会員以外の知人や友人などを誘って、調査に参加してもいいですか？

A　大歓迎です。タカの渡り調査に参加していただくことにより、野鳥に興味を持っていただければ、新しい仲間が増えるチャンスにもなります。

Q18　調査地にカワセミ会の会員以外の方がいらした時の対応はどうすればいいですか？

A　まずは挨拶！ビジターの方には「ウエルカム精神」でお願いします。一緒に調査する気持ちで、タカが出た時は教えあって、タカ柱が見られたら一緒に感動を分かち合える雰囲気になるといいですね。

あとがき　　タカの渡り調査にみんなで参加しよう！

「タカの渡り観察」は気楽な鳥見スタイルです。

観察時間が長いし、タカが飛ばないと退屈することもあるけど…。
野外なので　間隔を開ければ、ソーシャルディスタンスもバッチリ！
静かにしなくても大丈夫！声を出してもタカは逃げません。
みんなで、ワイワイおしゃべりしながら、鳥見ができます。
椅子に座って、眠くなったらウトウト居眠りも OK です。
まったく歩きません。 重い望遠鏡も置きっぱなし。
歩きたい方（万歩計のノルマを達成したい方）は自由に付近の散歩もできます。
ティータイムでお茶やお菓子を食べながらでも観察できます。
秋空の下、食べるお昼（お弁当）は最高！
小鳥や蝶やトンボも見られます。
渡りのロマンを感じることができます。
上空を飛ぶ旅客機もたくさん見られ、旅行気分が味わえます。
秋の草花観察もできます。
会員同士の親睦も深まり、今まで以上に親しくなれます。
家族サービスにも安上がりでおススメです。
地元の方や同好のビジターの方とも交流できます。
遅刻しても早退しても、いつでも参加 OK です。
雲を眺めて、ボォーとするのもよし！雲の形からいろいろと想像するのも楽しみの一つ。
タカ柱が出現すれば、みんなで大盛り上がりすること間違いなし！
鳥見の感動を分かち合えます。
飛んでいるタカの識別ができるようになります。
日焼けサロンに行かなくても日焼けできます！
視力が良くなります？！
調査活動ですので、参加費はかかりません。
・・・・・・・
秋の渡りシーズン限定の「毎日行う探鳥会」といったノリで気楽に参加していただけると嬉しいです。

この手引きを参考にしていただき、一人でも多くの会員の皆さんがこの調査に参加されることを願っています。

タカの渡り調査 参加の手引き 作成委員会
粕谷和夫、加藤岸男、角田幸男、中村后子、長堀嘉一、古山隆（委員長）

タカの渡り調査　参加の手引き

秋空の下、タカを見つけよう！数えよう！

2023．6．1　発行

八王子・日野カワセミ会